

### 3. 第 1 回三重県建設産業活性化プラン検討会議 開催結果



- 1. 検討会議説明事項概要**
- 2. 検討会議開催結果**
- 3. 検討会議にて出された主な意見**



現プランの  
成果検証

三重県の建設産業の現状分析  
(社会情勢・県内建設企業の状況)

(巻末資料を参照)

上記の成果検証や現状分析を踏まえ、検討会議委員の知見に基づき、  
3つの**取組方針**における具体的な目標・施策等を議論・検討

## 取組方針

### 地域の建設企業の存続 (時代の変化に対応した経営)

#### 【担い手の確保】

教育機関との連携の下、建設業の  
**魅力を発信**し、担い手を確保する

#### 【生産性の向上】

業務プロセスの仕組みの改善や、**建設DXの導入**により、生産性を向上させる

#### 【労働環境の改善】

休日の確保や長時間労働の是正、  
女性活躍等を推進し、労働環境の  
改善を図る

計画期間

令和6年度～令和9年度



## 【次期プランで取り組むべき課題】

### 1. 担い手、労働者の確保

#### 現状分析結果

##### 県内建設業の就業者数

①県内就業者数は減少傾向（15年間で25%減）  
（東紀州地域が顕著）（P24）

##### 入職動向

- ②県内の新卒就職者数は全産業で減少傾向（4年間で18%減）（P25）
- ③建設業の有効求人倍率は高く推移しており、慢性的な人材不足（P25）
- ④入職のきっかけは、学校関係者や家族・親族からの紹介が多い（P25）

##### 採用動向

⑤新規採用者以外にも、社会人（中途採用）の採用など幅広く人材確保がされている。（P26）

#### プラン取組結果

##### 担い手確保の取組

- ①出前授業、現場見学会、進路指導教諭との交流会など、継続して取り組んだ結果、担い手確保の取組は大きく進んでいる。（P37）
- ②一方で、取組が入職に繋がっているかが不透明。（P37）
- ③工業系高校より、入職に向けて在学中に資格取得させるなど、早めの動機付けが効果的であるとのアドバイスを受けた。（P37）

#### 課題

##### 就職先としての建設業の定着

学校の情報やニーズをいち早く把握するため、**各学校へ継続的に訪問を行い、関係性の構築を図る**必要がある。

（①～④、①、②）

##### 生徒に届く魅力発信

**入職に向け効果的な取組を検討し、実施していく**必要がある。あわせて、建設業が職業選択肢となるよう、**生徒とともに保護者へも早めの動機付け**が必要である。

（④、①、②、③）

##### U・Iターン人材の確保

新卒就業者の減少を補う**U・Iターン人材等への働きかけ**が必要である。

（①、②、③、⑤）



## 【次期プランで取り組むべき課題】

### 2. 建設現場の生産性の向上

#### 現状分析結果

##### 県内企業 ICT経験率

①企業の経験率は、Aランクの64%、Bランクの22%に留まっている。(P31)

##### ICT活用 の意向

②アンケートより、Aランク企業では、約8割が活用を進めている又は積極的に活用していきたいとの意向を持っている。(P33)

##### ICT活用 が進まない 理由

- ③アンケートより、BCランクでは経費や人材確保の観点から進まないとの回答が4割。(P31)
- ④人材育成を行うためのノウハウ、時間がないとの回答が3割。(P33)
- ⑤遠隔臨場、ASPについて、試行を進めている。(P32)

#### プラン取組結果

##### 試行工事 の結果

- ①試行工事の実施件数は年間240件まで増加したが、ここ数年の実施率は、約65%で高止まり。(P31,38)
- ②ICT活用により、生産性向上の効果は確認されている。(P32,38)
- ③採算性の観点から、小規模な現場などで実施率が悪い傾向にある。(P34,38)
- ④BIM/CIMについて、試行を進めている。(P38)

#### 課題

##### 建設DXの普及啓発

ICT、遠隔臨場、ASPについて、導入効果を広く周知し、**業界全体に建設DXの浸透を図る必要がある。**

(①、②、⑤、①、②)

##### ICT活用工事の 小規模現場等への対応

**採算性の悪い小規模現場に対応できるICT活用工事**の導入が必要である。(③、③)

##### 人材育成

ICTに対応できる人材が不足しており、**人材育成に対する支援**が必要である。(③、④)

##### BIM/CIMの活用

BIM/CIMを活用・拡大していくため、**3次元測量の活用・普及**が必要である。  
(④)

## 【次期プランで取り組むべき課題】

### 3.労働環境の改善

#### 現状分析結果

##### 社会情勢

- ①依然として高い離職率（P27）  
（仕事内容、労働時間、給与）
- ②時間外労働の上限規制が、R 6. 4より適用（P28）

##### 県内建設業 の実情

- ③週休二日相当の休暇取得率は低い（P29）
- ④年間総実労働時間は、他産業と比較して年間300時間以上は長い（P28）
- ⑤入社後2割の社員が「給与・福利厚生」不満（P30）

#### プラン取組結果

##### 労働環境 の改善

- ①県発注工事の週休二日試行工事は概ね浸透（P37）  
（R 4達成率77%）
- ②週休二日制工事は市町、民間には浸透していない。（P37）
- ③若手登用は進まなかった。（P39）

#### 課題

##### 休日の確保

週休二日相当の休暇取得が業界全体に浸透していないことから、**市町、民間含めて取り取り組む**必要がある。

（①、③、**①**、**②**）

##### 時間外労働時間の削減

時間外労働の上限規制への対応も含めて、**時間外労働の削減に**取り組む必要がある。

（①、②、④）

##### 処遇の改善と人材育成

**給与や福利厚生の改善**や**就業者定着に向けたキャリア構築**が必要（①、⑤、**③**）



# 1. 検討会議説明事項概要

## 取組方針 1

担い手の確保 (教育機関との連携の下、建設業の**魅力を発信**し、担い手を確保)

### (課題)

- ・就職先としての建設業の定着
- ・生徒に届く魅力発信
- ・U・Iターン人材等の確保



### 取組施策 (案)

- (1) 教育機関・建設業界・行政の連携
- (2) 生徒への魅力発信・動機付け
- (3) U・Iターン人材等への働きかけ

## (1) 教育機関等との連携

### 建設業界と一体となった学校訪問



### 教員と企業との交流会



## (2) 生徒への魅力発信・動機付け

### 出前授業 (担い手確保支援チーム)



## 2 級施工管理技士資格取得支援

### (事例)



令和5年度熊本県建設業若手技術者等資格取得費補助金について

## (3) U・Iターン人材への働きかけ

その場でインターンシップ等の申し込みOK(一部除く)

### 企業の魅力発見フェアin三重 インターンシップ等説明会

～「みえの働き方改革推進企業」「くるみんマーク取得企業」など、働く人に優しい三重県企業が多数参加します!～



みえの働き方改革推進企業  
働き方を見直し、誰もが働きやすい職場環境づくりに向けて積極的に取り組む企業をさが登録・表彰しています。  
「くるみん」マーク取得企業  
「くるみん」マークは、「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定を受ける企業だけが使用できるマークです。仕事と育児の両立支援のための取組を積極的に進めています。

日時 **8月7日(月)**  
13:00～16:00

会場 四日市市地産産業振興センター  
(じばさん)6階ホール  
三重県四日市市安島1丁目3-18



対象者 ・大学、短大等に在学中の方(学年問わず)  
・転職をお考えの方など

参加企業 **20社**(詳細は裏面)

参加費無料

内容 13:00～  
企業の1分間PRプレゼンテーション  
・企業の事業内容及びインターンシップ等の説明と質問タイム(ブース形式)  
各回入替を行います(最大5社まで参加できます)  
①13:30～②14:00～③14:30～④15:00～⑤15:30～

服装自由

お問合せ・お申込みはこちら TEL **059-222-3309**

「おしごと広場みえ」 E-mail [u-scmnar@mie-kintukukyo.or.jp](mailto:u-scmnar@mie-kintukukyo.or.jp)

URL <https://www.oshigoto-mie.jp/shiroko/intermship/>

お申込フォーム

事前申込  
(当日参加もOK)

〒514-0009 三重県津市瑞穂町700番地  
アストラムビル(津駅前西口)

TEL:059-222-3309 FAX:059-222-3301

【開所日時】(休業日、休日除く) 当日の両方ご来場が原則のため、ご予約は、事前申込みを推奨いたします

月～金曜日 9時～18時 土・日・3休曜日 11時～17時

主催:三重県 協賛:おしごと広場みえ(公財)三重県労働福祉協会

後援:三重労働局 四日市労働会館 三重県学生就職推進協議会



## 取組方針 2

生産性の向上（業務プロセスの仕組みの改善や、**建設DX**の導入により、生産性を向上）

### （課題）

- ・ 建設DXの普及啓発
- ・ ICT活用工事の小規模現場等への対応
- ・ 人材育成
- ・ BIM/CIMの活用

### 取組施策（案）

- （1）建設現場における生産性向上
- （2）ICT人材の育成
- （3）測量・設計・施工の効率化

### （1）建設現場における生産性向上

#### ・ 建設DX促進説明会の継続



#### ・ ICT活用工事の推進



#### ・ 遠隔臨場の実施



### （2）ICT人材の育成

#### ・ ICT研修の開催



将来の県土づくりを支える建設人材を育成するため、建設現場における生産性向上に向けた建設ICTの担い手育成や建設業者の技術力・経営力向上のための研修を積極的に展開してまいります！

##### ★ 新規入職者の確保・定着

- **建設業初任者研修**  
建設業初任者の早期育成と業界定着のための研修を集合研修で実施します。  
・ 社会人としての心構えやビジネスマナー、建設業への理解促進
- **建設業初任者フォローアップ研修**  
初任者研修の約半年後にフォローアップ研修を実施します。  
・ これまでの振り返り、先輩職員としての心構え、キャリアビジョンの作成
- **OJT研修**  
新人を育てるための心構えや必要なスキルを学ぶ研修を実施します。  
・ 新人の傾向と向き合い方、効果的な指導方法



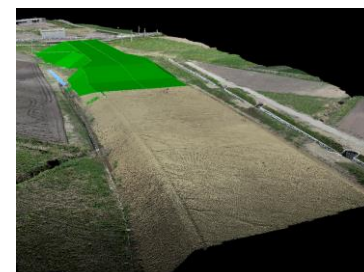
（他県事例）

### （3）測量・設計・施工の効率化

#### ・ 三次元測量の普及



#### ・ BIM/CIMの活用支援







## 取組方針3

## 労働環境の改善 (休日の確保や長時間労働の是正、女性活躍等を推進し労働環境を改善)

### (課題)

- ・ 休日の確保
- ・ 時間外労働時間の削減
- ・ 処遇の改善と人材育成

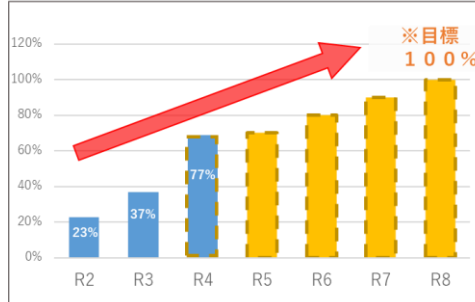


### 取組施策 (案)

- (1) 週休2日制の定着
- (2) 施工管理の効率化・分業化
- (3) 適正な利潤の確保・人材育成・福利厚生など  
(給与水準、CCUSの活用など)

### (1) 週休2日制の定着

4週8休指定型工事の拡大により  
4週8休達成の取組を促進



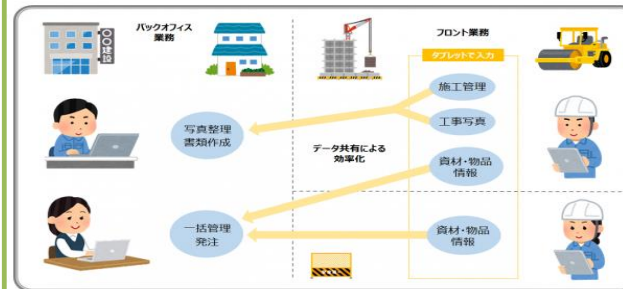
4週8休達成率 = 4週8休達成した工事件数 / 週休2日制工事発注件数

◎市町の週休2日制工事の状況 (令和4年度実績)

- (1) 導入状況  
全29市町のうち28市町にて制度を導入  
⇒制度としては浸透
- (2) 発注工事に対する実施件数の割合  
約10% (267件/2812件)  
⇒制度は浸透しているが、工事件数は少なく週休2日制工事が浸透していない。

### (2) 施工管理の効率化・分業化

#### 建設ディレクター等の活用

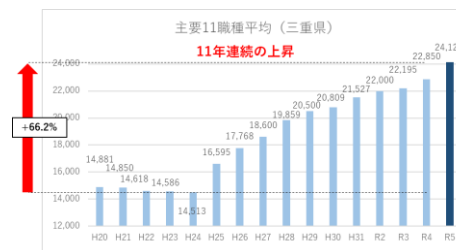


#### ASP

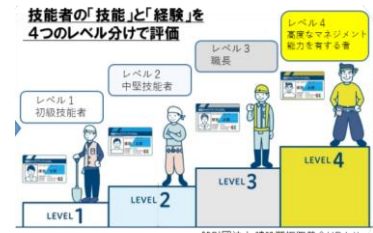


### (3) 適正な利潤の確保・人材育成・福利厚生

#### 物価高騰への適切な対応



#### 建設キャリアアップシステム (CCUS) の活用



## 第1回検討会議の開催結果

開催日：8月21日（月）

### 【会議概要】

策定主旨・計画期間、建設業に期待する役割、建設産業の現状分析結果、現プランの取組結果から、次期プランで取り組むべき課題を整理し、骨子案として以下の3つの取組方針に基づき取組施策を中心に議論して頂いた。



### 取組方針

#### 地域の建設企業の存続（時代の変化に対応した経営）

#### 【担い手の確保】

教育機関との連携の下、建設業の  
**魅力を発信**し、担い手を確保する

#### 【生産性の向上】

業務プロセスの仕組みの改善や、  
**建設DXの導入**により、生産性を向上させる

#### 【労働環境の改善】

休日の確保や長時間労働の是正、  
女性活躍等を推進し、労働環境の改善を図る

### 【結果】

事務局より示した骨子案の内容について概ね認めていただきました。

また、各委員の専門的な見地から、取組施策についても、具体的な意見・助言をいただいた。

三重県建設産業活性化プラン検討会議

役職	氏名	分野
三重大学大学院 生物資源学研究所 教授	岡島 賢治	学識経験者
成蹊大学 経済学部 名誉教授	井出 多加子	
名古屋工業大学大学院 工学研究科 教授	秀島 栄三	
東日本建設業保証株式会社 三重支店長	上田 樹雄	金融・シンクタンク
百五総合研究所 主任研究員	小林 ゆかり	
三重県立伊勢工業高等学校 校長	奥山 敦弘	教育
三重県建設業協会 労働委員会 担当副会長	橋爪 吉生	建設企業
市町（発注者協議会） 津市建設部長	渡邊 公隆	行政
三重県県土整備部 理事	佐竹 元宏	

# 3. 検討会議にて出された主な意見

検討会議にて各委員の専門的な見地から具体的な意見・助言をいただいた。

## 第1回検討会議で出された主な意見

### 「取組方針1 担い手の確保」

#### 1) 魅力発信、動機付け

- 工業高校の生徒が建設企業の現場説明会などの取組に、**企画段階から参加することで建設企業に親近感が出て、魅力を感じやすくなる。**
- **中高生よりももっと下の世代（小学生）や保護者**に向けて建設業界からものづくりに対する**魅力を伝えられるとよい。**
- **Uターン・Iターンで戻ってくる人は高校の先生を頼るケースもある。先生に地域の建設企業を覚えてもらうとともに、受け皿として就職先を用意しておくことが必要。**
- **先生が生徒に信頼できる企業を提示**できるかが重要。学校と信頼できる地域の建設企業の連携が必要。
- **建設業のことを教えることが出来る先生が少ないため、出前授業の実施など外部から教育に協力いただき、非常に助けになっている。今後も続けて欲しい。**

#### 2) 人材育成

- **就業後の資格取得は負担**に感じている人が多い。**取得できる資格は、工業高校に通っているうちに取得させると良い。**

#### 「取組方針 2 生産性の向上」

- **建設DXに成功している企業を紹介し水平展開**を図ることが必要。
- 県一律で取組を実施するよりも、**パイロット企業に補助金を出して成功例をつくり、その成功例を踏襲して進める**方法も有効。
- ICTの導入が単なる「人員削減」や「効率化するだけの道具」にならないように注意する必要がある。**ICTの導入により適正な利潤が確保**できるようにしなければならない。
- **BIM/CIMは工業高校と地元企業が一緒に取り組めれば両者によって良い。**

## 「取組方針3 労働環境の改善」

### 1) 週休2日制の定着

- 週休2日制への対応について、例えば1か月単位でまとまった休暇を取れるような制度を作るなど、**就業規則のサポートが必要**。

### 2) 適正工期の確保

- 民間建築工事が問題**。「適正な工期を確保していなければ建築確認申請を受け付けない」くらいの姿勢で取り組んでいただきたい。
- 現場での準備、片付け、危険予知活動は時間外労働で行っている。**時間外労働を減らすため1日8時間労働とする場合は、現場の作業時間が5～6時間になるため、工期を長くしても適正な利潤が確保できるようにする必要がある**。
- 工期の短縮を評価するのではなく、今後は適正な工期を確保していることを評価するようにならなければならない**。

### 3) 残業時間の削減

- 施工管理の効率化や分業化**に加えて、**事務所内（バックオフィス）での作業もDX化**できるものがある。

### 4) その他

- 発注金額は県と市町では同程度、発注件数は市町の工事は県の工事の1.5倍である。**市町に対して施策を浸透していくこと重要**である。